

6, August

英語を楽しく

“No”についての欧米人と日本人の感覚のちがい？

よく

「英語では Yes, No をはっきりと言わなければいけない。」
と言われますが、はたしていつでもそうでしょうか。むしろ、日本のように “No” の気持ちを婉曲的に表現する方がよい場合が多くあるのです。

例えば、夕食に招かれたとき、

“Do you eat more second?”

とご飯のおかわりを進められたとしよう。そのとき、「いいえ。」のつもりで

“No.” と言うと、進めた方は、「えっ！なんで、何か気に入らないことが…。」
と心配するかもしれませんのです。だから、“No”と言えば必ず、そのわけを言わないといけないです。

答え方として

① “No, I have had enough.”

結構です。十分いただきましたから。

② “Thank you, but No, I'm on a diet.”

ありがとうございます。でも、結構です。いまダイエット中なんです。

でも、もし “No” しか出てこなかったら、

にっこりして、おなかをさすりながら “No”と言えば、進めた方は気持ちよくこちらの気持ちを理解できるはずで～す。

♡をこめて

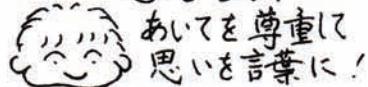
☆英語で会話するとき、

① 正しく言えること。

② 正しく理解できること が 大切という人も多いと思いますが
最も大切なことは、言葉よりも

③ 向かい合っている相手に対する態度（表情）

だと思います。日本でも「『目』は口ほどに物を言い。」と
言うでしょう。[目つきでその人の気持ちが表れるから]

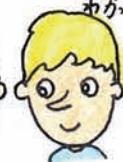


“It's a must.” ……「えっ、なにそれ？」

must に a がつくなんて、おつかしーい、なんて言わないでください。
あるんです。訳は「それは必需品だね。」です。must の「～しなければならない」の意味を考えると「それはなければならない」となって 必需品 という意味にもなったと思います。

ちなみに You must eat this cake. は「ぜひとも、このケーキをたべてね。」です。もちろん、その場の状況によりますが。

No.と
Yes.と
No.でも、その気持ちを
わかるよう



No.でも、その気持ちを
わかるよう